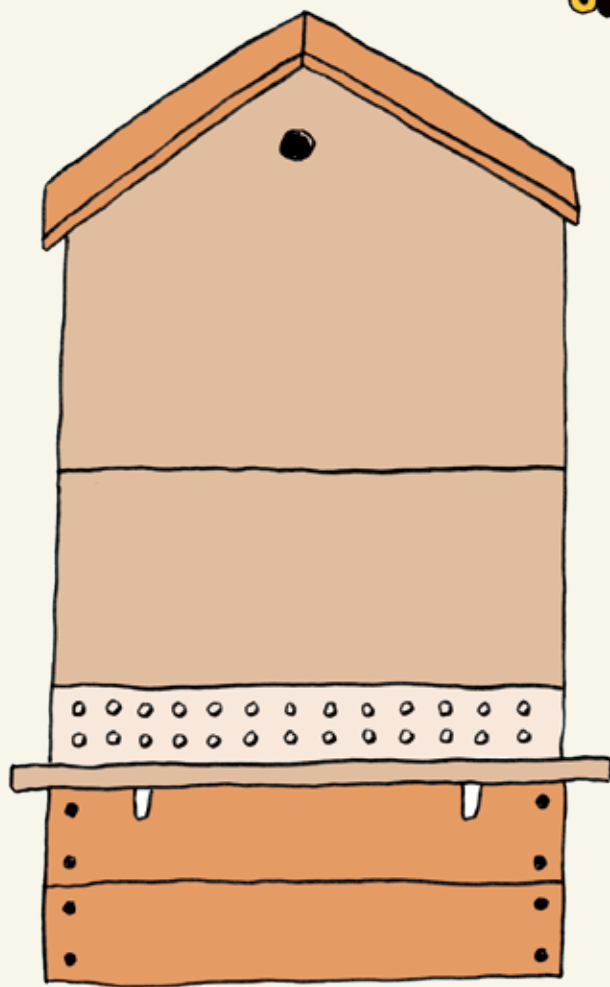


みつばち共和国

LA RÉPUBLIQUE DES ABEILLES



おとぎ話のようであり、
すべてが真実である。

国際共同制作作品

(メーテルリンク作『蜜蜂の生活』に基づく)
作・演出 || セリーヌ・シエフエール 日本語台本 || 能祖將夫 出演 || SPAC

2020年10月17日(土)・18日(日)・24日(土)・25日(日)

各日10:30開演/15:30開演 ※10:30は「ファミリー回」

静岡県舞台芸術公園 屋内ホール「楢円堂」

SPAC

SHIZUOKA PERFORMING ARTS CENTER

芸術総監督 宮城聡

スパック = 静岡県舞台芸術センター

ごあいさつ

演出：セリーヌ・シェフェール Céline Schaeffer



© Céline Schaeffer

何百万年も前から、みつばちと花はおたがいになくてはならない存在です。百年とすこし前には、メーテルリンク*という作家が「^{みつばち}蜜蜂の生活」を言葉で描いていました……。何十年前から、私はそのうつくしい言葉を、みつばちの歌声を、子どもたちに聞かせたいと夢みてきました。そしていま、^{だえんどう}楢円堂という暗い^{すばこ}巣箱の中で、すばらしいチームが毎日せっせと『^{きょうわこく}みつばち共和国』のお稽古をしています。広い心で私の言葉をしっかり受け止め何週間にもわたって特別な^{けいこ}お稽古を続けてくれたチームのみんな、ほんとうにどうもありがとう。

今日、こうしてみなさんにこの作品を^み観てもらうことができ、心から^{うれ}嬉しく、^{ほこ}誇らしく思っています。ただひとつ、みなさんと一緒にその場にいられないのだけが残念でなりません。私たちが^{けいけん}経験しているこの^{わざわ}災いを思うと、自然は人間から遠くはなれたところにあるのではなく、私たち人間も自然の一部であり、人間の未来は自然にかかっているんだと、いままで以上にはっきりと感じます。私たちの守り神であるみつばちと、そのみつばちが住んでいる自然とを一緒に守っていかなくてはなりません。

花から星まですべてはつながっています。

静岡の、SPACの真ん中にある^{しゅんかん}巣箱がいま、この瞬間にかがやきますように!!!

地球の反対側でみなさんを想っています!

翻訳：平野暁人

*モーリス・メーテルリンク：『青い鳥』で知られるベルギーの詩人・劇作家・随筆家。1901年に書かれたエッセイ『蜜蜂の生活』は、彼をノーベル文学賞に導いたとも言われる代表作。

セリーヌ・シェフェール：演出家、ビジュアル・アーティスト。フランス生まれ。造形美術を学び、作家ジョルジュ・ペレックの小説に着想を得たインスタレーションを発表し注目される。1995年より演出助手として舞台に関わり、99年以降、言語実験の劇作家として知られる劇作家・演出家ヴァレール・ノヴァリナとの協働を重ね、自身も演劇・言語・美術を横断する創作で注目される。2019年カンパニー・ル・メロドローム (Le mélodrOme) を設立、フランス・アヴィニョン演劇祭で『みつばち共和国』を創作・初演し、反響を呼んだ。

本公演は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、2019年初演時からは演出上の変更を施し上演いたします。演出家のセリーヌ・シェフェール氏、舞台美術のエリ・バルテス氏の来日が難しくなったため、本作の稽古はフランスと静岡をインターネットの会議アプリでつなぎ、リモートで行われました。

出演（五十音順）

Q1: この作品で好きなセリフは？ Q2: 好きな季節とその理由は？



© 本舞台

たきいみき 〈女王バチと働きバチ1〉

A1: 1億年以上も前から、花はミツバチにこう言ってるみたい。「ミツをあげるから、花粉を運んで」自然の未来を背負って、ミツバチと花は無言の言葉を交わしている。(by 巣箱保護員)

A2: 夏／ミツバチが生き生きと暮らしてる時間が、演じていても楽しいので。



© 中野真希

^{ながいけんじ}
永井健二 〈巣箱保護員〉

A1: 大切なことはたいてい、誰にも気付かれないところで、ひっそりで行われる。(by 巣箱保護員)

A2: 春／出会いと別れ、環境の変化、雪解け、めざめ、芽ばえ、咲き乱れ、アオハル。

幸せのミツのハチを探して

日本語台本：能祖将夫



この三月、世界中にコロナが広がっていく中での一ヶ月間、私は家から一歩も出ずに『みつばち共和国』の日本語台本に取り組んでいました。一日に一さじと決めたハチミツを大切に大切に味わいながら。そう、気分はすっかり巣箱のミツバチ。

と同時に、世界中の人間をやはり同じ仲間のように感じていたのです。外は激しい嵐だけど、いずれこの苦難が去れば、また外に出て一緒に群れをなし、匂い立つ花の間を飛び回ることが出来る、だからそれまでは巣ごもりしてなんとか耐え抜こう、そんなふうに。

「犬や魚は一匹でも飼えるけどミツバチは一匹では飼えない、仲間といないとすぐに死んでしまう」と、『みつばち共和国』では言っています。「どんな目にあっても決して将来を嘆かない」とも。この姿に私は人間を重ねたいと強く願いました。人間がミツバチに学ばなくてはならないことはたくさんあります。そのミツバチが絶滅の危機にあるそうです。そう言えば、最後に見たのはいつだったでしょう……？

セリーヌさんとSPACのみなさんが作りあげたこの美しく力強いステージを通して、「自然のたましい」を探す旅に出てみませんか？その時、私たちは「青い鳥」を探すチルチルとミチルに違いありません。

のうそ・まさお：愛媛県出身。慶應義塾大学卒。青山劇場・青山円形劇場のプロデューサーを経て、茨城県小美玉市の四季文化館芸術監督(2011年まで)、北九州芸術劇場プロデューサー(2020年まで)。全国の劇場で市民参加作品を手掛け、2007年から毎夏に公演している『群読音楽劇 銀河鉄道の夜』(脚本・演出を担当)は、「令和2年度児童福祉文化賞」を受賞。詩集に『あめだま』、『魂踏み』、『方丈の猫』など。第4回「びーぐるの新人」。桜美林大学教授。



© 中野真希

^{なかむらゆうき}
仲村悠希 〈オスバチと働きバチ2〉

A1: 花から星まで、すべてはつながっている。(by 自然の声)

A2: 春／ふと足元を見ると、黄やピンクの小さな花々。ああまた新しい1年だと喜びと切なさの混じった息を吐く。



© 中野真希

^{ばんどうふみじ}
坂東芙三次 〈自然の声〉

A1: 暗い巣箱の中で結婚はできない。

愛が飛ぶには果てしない青空がなくては。(by 自然の声)

A2: 誕生日のある春／桜が咲いて、あったかいし、なんとかなるかなあと思えて好きです。

アンダースタディ：中野真希、坂東芙三次

スタッフ

台本下訳:井上由里子

通訳:平野曉人

演出補:中野真希 / 演出助手・映像技術:守山真利恵 / 舞台監督:山崎馨 / 演出部:森部璃音 / 照明アレンジ・操作:樋口正幸 / 照明:水野ヒカル / 音響:澤田百希乃、大畑実莉 / 美術担当:佐藤洋輔、渡部宏規 / 衣裳製作:駒井友美子 / ワードローブ:牧野紗歩 / 技術監督:村松厚志 / 映像撮影:フリーライディング / 制作:丹治陽、雪岡純、坂本彩子

宣伝美術・当日パンフレットデザイン:阿部太一 (TAICHI ABE DESIGN INC.)

宣伝イラスト:落合恵

《オリジナルスタッフ》

舞台美術:エリ・バルテス、セリーヌ・シェフェール、ロラ・セルジャン / 映像:エリ・バルテス / ドラマトゥルク:ジュリアン・アヴリル / 音楽:ピーター・チェイス / 衣裳・小道具:ロラ・セルジャン / 照明:ジャン＝パスカル・プラシュト / 舞台装置:ジェローム・ジュエル / 絵:ジャン＝ポール・ドゥヴィントゥール / 蜂のイメージ映像:ジャン＝ミシェル・プーリショ

SPAC 今後の公演予定

SPAC 秋 → 春のシーズン2020-2021

『妖怪の国の与太郎』(演出:ジャン・ランベール＝ヴィルド、ロレンゾ・マラゲラ)

11月14日[土] 会場:掛川市生涯学習センター ホール

12月19日[土]・20日[日] 会場:静岡市民文化会館 中ホール

『病は気から』(潤色・演出:ノゾエ征爾)

2021年1月23日[土]・24日[日] 会場:静岡市民文化会館 中ホール

『ハムレット』(演出:宮城聡)

2021年2月6日[土]・7日[日] 会場:静岡芸術劇場

2021年2月11日[木・祝] 会場:下田市民文化会館

ふじのくに野外芸術フェスタ2020 in 掛川

『おおっと ええっと ええじゃないか』(演出:寺内亜矢子)

10月31日[土]・11月1日[日] 会場:大日本報徳社大講堂前 広場

『みつばち共和国』

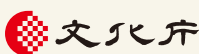
主催・製作:SPAC・静岡県舞台芸術センター

共同製作:カンパニー・ル・メロドローム (Le mélodrome)

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

後援:在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランセ日本

ふじのくに芸術祭共催事業



SPAC公式サイト <https://spac.or.jp>

Twitter @_SPAC_

Facebook SPACshizuoka

Instagram spacshizuoka